

<p>a 学校教育目標</p>	<p>心豊かに かしこく たくましく生きる児童の育成 一認め合い支え合い 深い学びを求めて 最後まで挑戦する児童一</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 生き生きと活気あふれる学校</p>
-----------------	---	------------------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価							
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント				
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ					
<p>確かな学力 市内トップクラスの学力をつける。</p>	<p>基礎・基本の学力を定着、思考力・判断力・表現力の育成を図る。</p>	<p>・授業の終わりに学習を振り返りまとめを書く取組を進め、授業での成長や自分の課題を見つめさせることで、学びを促す力として身に付けさせる。 ・帯タイムや家庭学習による繰り返し学習の徹底と単元末テスト結果による補充学習の実施の取組を推進し、基礎・基本の学力の定着を図る。</p>	<p>・実力テストで全学年・2教科(国・算)の平均点。 ・実力テストで60点以下の児童数。</p>	85点	83%	86%	85%	B	<p>校内実力テストでは、全校平均75.3%、60点以下の児童は16%で、目標値を達成できなかった。単元末テストでは、全校平均77%で、目標値を達成できた。級別別にみると、算数科において「知識・技能」の力と「思考・判断・表現」の力の達成値に大きく差が出ている。算数科の「知識・技能」面は、今年度から取り組みを行った朝の帯タイムの成果が表れていると考える。 ・ノート取組については、今年度は、コロナ禍のため休校が続き、授業の遅れを取り戻すため、教師主導で進めたりプリントを中心に授業を進らざることを多かつた。まよとの場面で本時のまとめる自分の言葉で書くことのできる児童は80%から71%に向上した。ノート交流会などを通して、全校で意識して取り組んだ成果だと考える。今後児童が自分自身でまとめる考えられるよう、板書の工夫も取り組んでいく。振り返りの場面で自分の考えをまとめることができる児童は78%で、ほぼ変わらない。45分間に振り返りを書く活動まで終わらない実態がある。授業の組み立て、時間配分を含めた授業改善が必要である。</p>	<p>・「思考・判断・表現」の力の向上を図るため、「ぐんぐんタイム」を活用する。 ・算数科においては、4月当初から自分の考えを「式で表す」「絵や図、表で表す」「言葉で書く」活動を意識した取り組みを進めていく。45分の授業内に振り返りを書く活動まで終えるためには、授業の組み立て、時間配分を含めた授業改善をさらに進めていく。 ・来年度は複式学級が存在するため、学習リーダーを中心に児童が主体的に学び、教師が見守る「見守り型支援」の取組を全校で行う。</p>	5			<p>・中期経営目標に掲げる「市内トップクラスの学力」とどの程度の学力を目指すのか。評価指標にある学力と80点以上がトップクラスと言えるのか。・・・という疑問を感じました。 ・目標は、相対値でなく絶対値がやりやす成果も分かりやすいと思います。 ・また、実力テスト60点以下を0人と高い目標値を掲げられ、学力の育成を促さるよう取組まれたことは高く評価できますが、「16%の児童が達成できていない現状からは、目標値・指標の再検討・見直しが必要なのではないかと感じました。時間配分の改善は改善されるよう考えられています。時間配分の改善は種々の児童への過度な負担にならないよう取組をお願いします。 ・細い評価作業がされており、学校全体での組織的な取組はよく伝わります。 ・ネット授業などの検討も必要になると思います。</p>				
				80人	66%	84%												
<p>豊かな心・健やかな体 市内トップレベルの心も体もたくましい児童の育成を図る。</p>	<p>生活態度を確立する「あじこ」 ・あいさつ返事 ・しんかん厳守 ・こぼつかい ・基本的な生活習慣の定着</p>	<p>・児童の主体的な取組として児童会活動の活性化を進める。 ・教職員自らが行動の理想形で指導する ・学期に1回、生活チェックカードを活用して、生活習慣の見直しを行う。</p>	<p>・自己評価・他者評価で「あじこ」の達成ができた児童の割合 ・自分が決めた時刻を達成できた児童の割合。</p>	90%	82%	93%	100%	A	<p>・あいさつについては、児童会と連携し、生活目標として児童に取り組ませた。前期に比べると、自己評価での肯定的評価が上がった。1月にはレベル4である「相手に笑顔であいさつしよう」も80%達成された。これは、児童会の呼びかけやあいさつ表、教職員による一人ひとりの声掛けを行った結果、前期に比べて、意識してあいさつをする児童が増えたように思われる。 ・言葉遣いについては、前期に比べ、自己評価・他者評価共に、達成率が上がった。児童会による声掛けや日常的に「ふわふわ言葉の木」や「いいとこ見つけの木」に花を咲かせる取組も継続しての結果であると捉える。 ・時間厳守・遅刻については、定着させている。 ・保護者の協力によるところが大きい。保護者のコメントからは、この取組が生活習慣の見直しに繋がっていることとわかる。学校と家庭がしっかり連携を取りながら定着を進めることができている。</p>	<p>・あいさつについては、レベル4の相手を見て笑顔であいさつしよう。は、自己評価・他者評価ともに90%に達している。引き続き声掛けをしたり、よいあいさつができてきている児童の割合をさらに、あいさつのできる児童の割合をさらに増やせる取組を目指す。 ・言葉遣いについては、児童会が中心となり生活目標に設定したリ、児童が書いた言葉を全校に発表したりする取組を行い意識付けを図る。 ・保護指導だけでなく、機会をとらえて繰り返し睡眠の大切さの指導を確実に行う。 ・生活チェック実施前、各学級で、規則正しい生活の大切さの指導を確実に行う。 ・必要に応じて、担任が個別指導を行う。</p>	5			<p>・「いいとこ見つけの木」「ふわふわ言葉」等の具体的な取組を行うことで成果が出てきており素晴らしいです。さらなる集団の高まりを期待します。 ・あいさつは、学校生活を活力あるものにするために有効と考えます。今後も続けてください。 ・教育目標の「たくましく生きる児童の育成」には体力の向上は重要です。学年によってばらつきがあるのは、工夫が必要です。</p>				
				80%	86%	101%	126%											
				90%	57%	89.0%	99%								B	<p>・アンケート・生活目標の自己評価ともに肯定的評価の割合が上がってきた。ふわふわ言葉については学期以降90%以上を保持しているため、普段の生活の中でふわふわ言葉を使うことが定着してきている。 ・いいとこ見つけについては、学年によってばらつきがある。</p>	<p>・自己評価と他者評価で差がある学年があるため、学級で取り組んでいることを交流する機会をもったり、学年内にとどまらず、異学年にも取組を広げたりし、自身や友達の見方を広げたり深めたりする。</p>	5
<p>体力の向上を図る。</p>	<p>・運動会(5分走・縄跳び)で目標を立てて取り組ませる。 ・サーキットトレーニングを継続して行い、基礎体力の向上を図る。 ・重点課題の継続的な取組を「行い、体力の向上を進める。</p>	<p>・体力テストの再測定で、県平均を上回った児童の割合</p>	80% *70%	55%	69.0%	86% *99%	B	<p>・前回と同様に握力と反復横跳びの記録を測った。県平均を上回った児童は、握力が72%、反復横跳びが66%であり、前回の記録よりも大幅に上回る結果となった。これは、前の運動タイムを継続的に行ってきたことや体育科の学習や休憩時間等の運動量が増えやすかったことと考えられる。前回の記録を上回らなかった児童においては、前回より数少ないという児童が多かった。体力が大幅に低下したわけではなく、維持できているのではないかと考えられる。</p>	<p>・体力の向上・維持を図るため、休憩時間等に外遊びを行っていくなど、学年に応じた取組を継続して行うよう呼びかける。 ・朝の運動タイムを引き続き行っていく。 ・体育の授業改善を行い、年間を通して体力向上を目指した運動を取り入れ行う。</p>	5								
			100%	99%	95.5%	98%												
<p>信頼される学校 学校と保護者・地域及び関係機関との双方向の信頼関係を構築する。</p>	<p>幼・保・小・中連携の推進を図る。 業務改善を図る。 地域に開かれた信頼される学校の構築を図る。</p>	<p>・共通課題克服に向けた取組を推進する。 ・スタートカリキュラム等の改善を行う。 ・学校行事や教育活動等の実施及び反省を活かして、それぞれの活動終了後速やかに次年度の計画フォルダを作成する。 ・スケジュール管理の徹底を図る。</p>	<p>・共通課題に向けた取組 ・PDCAサイクル ・勤務時間外の上限を守る</p>	2つ以上	100%	99%	95.5%	98%	B	<p>①今年度は、連携の頻度が少なかったが、今後は連携のあり方を工夫し、各校や園との交流が深まるようにしていく。小、中、新一年生がスムーズに学校生活を送ることができるよう、児童の美意識に合わせてきめ細やかな連携を進めていく機会を設定する。 ②引き続き、業務改善についての意識を高め、見直しを図る。業務内容の見直しを進める。スクールサポートスタッフと連携を図り、業務内容の精選、差別化をする。学校経営委員会や準備委員会のうち学校行事、PTA行事などの内容を見直し、限られた時間の中で、よりよいものを作り上げることができるように工夫する。また、教職員の研修の時間を確実に確保していく。 ③学校だよりは、これからも学校の取組や児童の様子をよく分かるように発信していく。また、学級連帯についても、各担任に呼びかけをし、学級での取組が保護者へ伝わり、理解や協力が得られるようにしていく。 HPについては、担当者と連携を密にし、更新回数を増やし、多くの方に発信した情報を見ていただけるよう工夫していく。</p>	5			<p>・コロナ禍においても、様々な工夫された教育活動が進められており、校長先生をはじめ教職員の皆様に敬意を表します。 ・いつも学校だよりやホームページで学校活動の様子を見ている。タイムリーな情報を提供していると思います。 ・今年度もコロナ禍で積極的な地域交流の実施が難しいと思います。関係機関との会議などもネット会議を進めることもあるのではないのでしょうか。 ・HP発信について更新回数を増やすことも重要ですがアクセスログやよく見られているページなどの集計や分析はされていますか。もしされていない場合は効果的な配信にはアクセスログ分析が必要かと思えます。</p>				
				100%	99%										95.5%	98%		
				90%	70%										125%	138%		

【:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。